

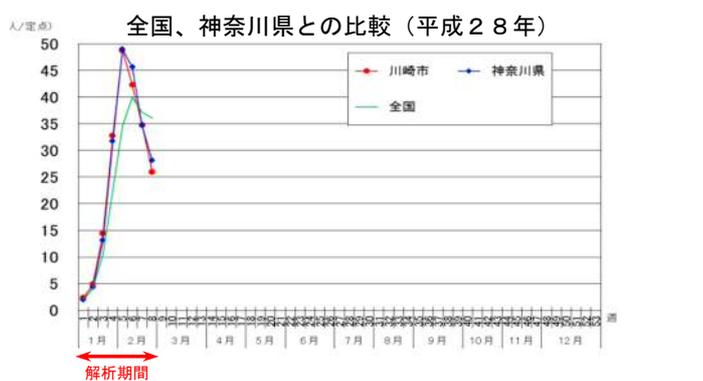
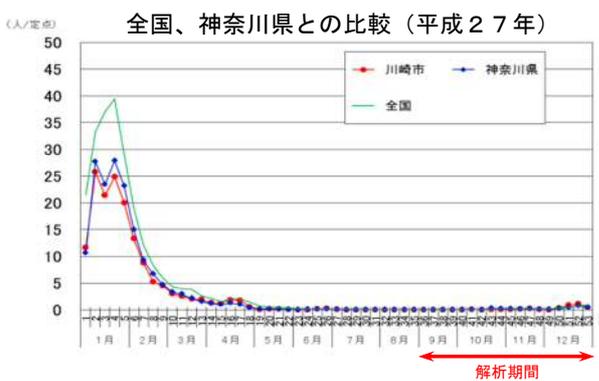
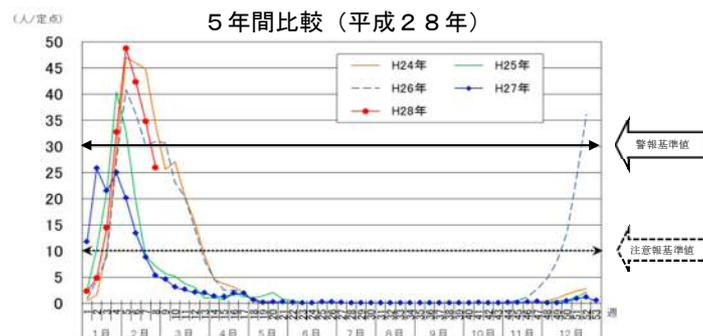
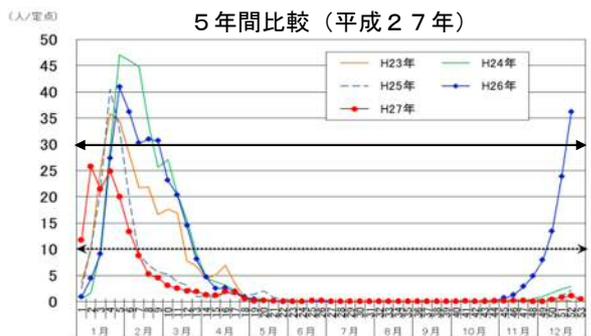
疾患別発生状況解析(平成 27 年 9 月～平成 28 年 2 月)

<インフルエンザ定点対象疾患>

インフルエンザ(警報基準値:定点当たり 30 人、注意報基準値:定点当たり 10 人)

【川崎市】

今期(平成 27 年 9 月～平成 28 年 2 月)は計 11,324 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 110%で、ほぼ例年並みのレベルで推移しました。2015/2016 シーズンは、第 52 週(平成 27 年 12 月 21 日～12 月 27 日)に定点当たり報告数が 1.13 人となり、流行開始の目安(定点当たり 1.00 人)を超え、例年に比べて 2 週間程度遅れて流行が始まりました。年明け以降は、第 3 週及び第 4 週に流行発生注意報基準値(10)及び流行発生警報基準値(30)をそれぞれ超え、第 5 週(平成 28 年 2 月 1 日～2 月 7 日)に流行のピーク(定点当たり 48.78 人)となりました。



なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。2015/2016 シーズンは、AH1pdm09 型が 73 件、B 型が 47 件、A 香港型が 17 件、AH1pdm09 型と B 型の重複感染を疑う事例が 1 件ありました。

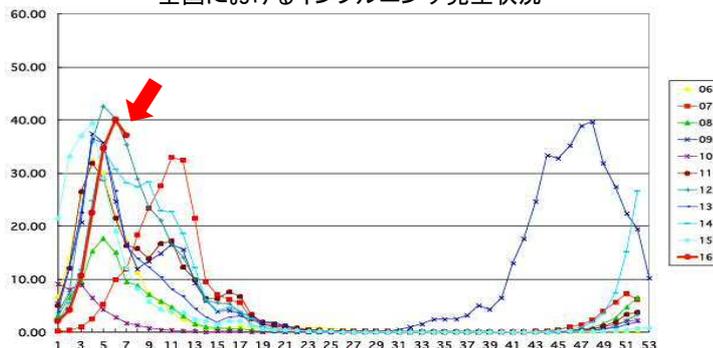
インフルエンザウイルス検出状況



【全国及びその他】

全国的にも例年に比べて流行が遅れて始まりました。

全国におけるインフルエンザ発生状況



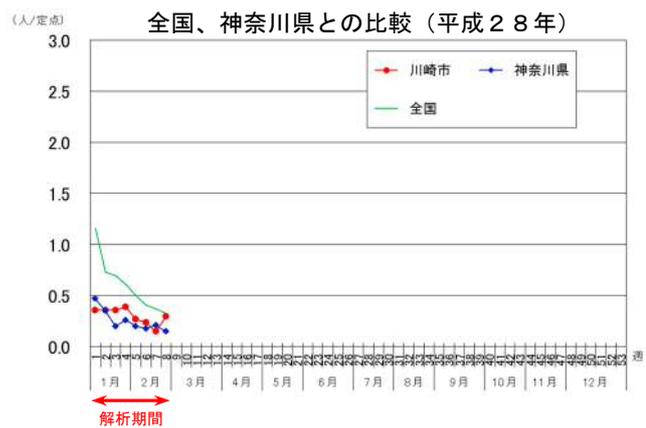
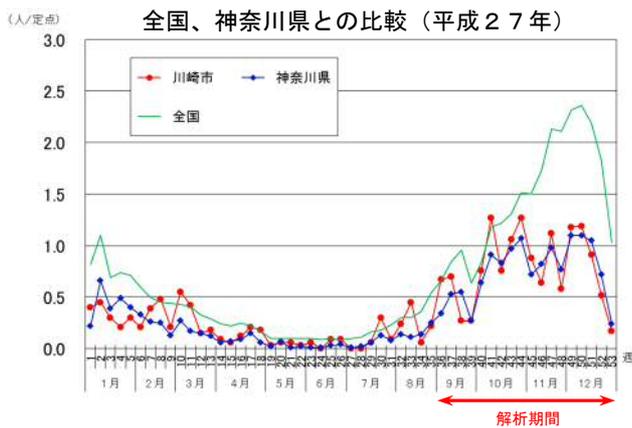
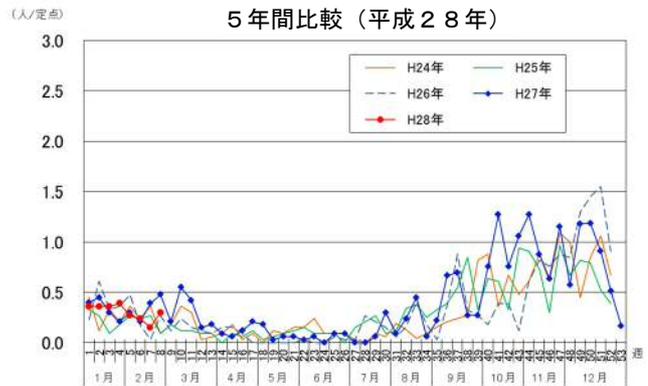
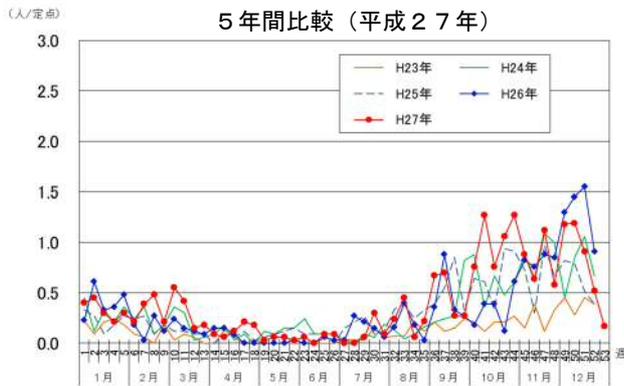
<小児科定点対象疾患>

RSウイルス感染症

【川崎市】

今期は計 548 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 161%で、例年より高いレベルで推移しました。平成 24 年以降、冬期の流行規模が大きくなるとともに、流行開始時期が徐々に早くなっています。

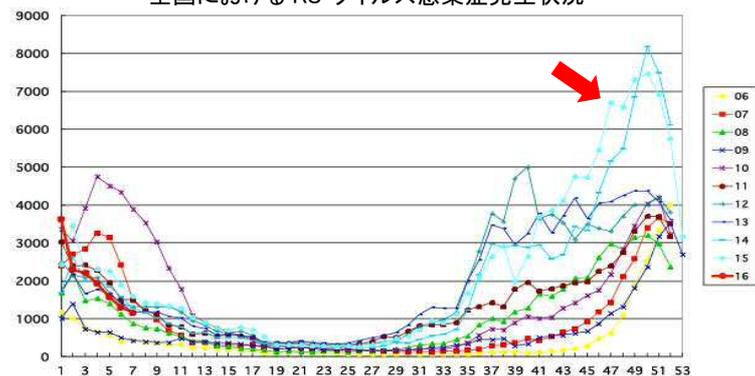
また、年齢別では 1 歳以下が 84%を占めていました。



【全国及びその他】

全国的にも例年より高いレベルで推移しました。

全国におけるRSウイルス感染症発生状況



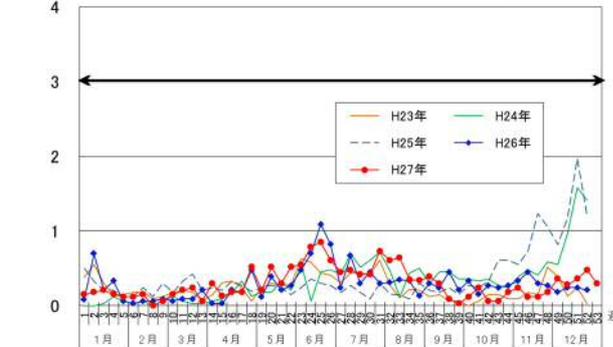
咽頭結膜熱(警報基準値:定点当たり3人)

【川崎市】

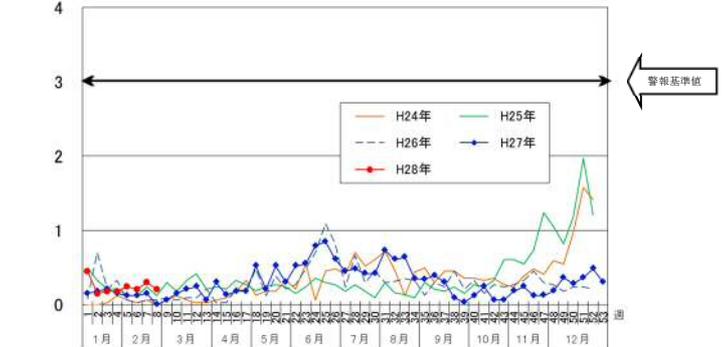
今期は計 193 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 66%で、例年より低いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (4) を超えた週はありませんでした。

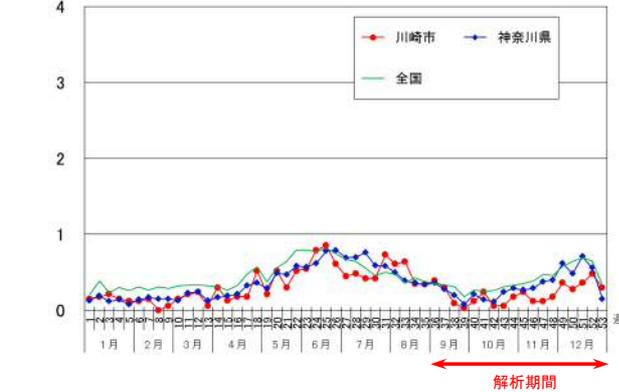
5 年間比較 (平成 27 年)



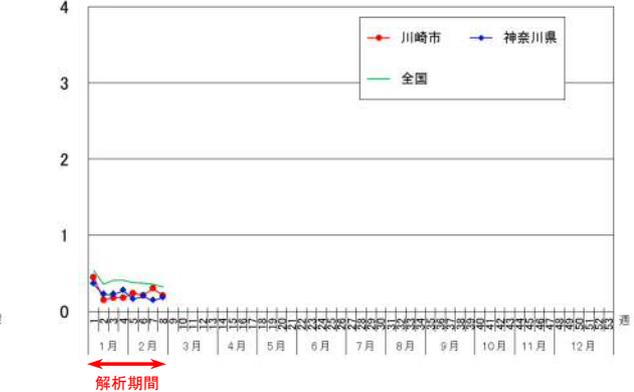
5 年間比較 (平成 28 年)



全国、神奈川県との比較 (平成 27 年)



全国、神奈川県との比較 (平成 28 年)



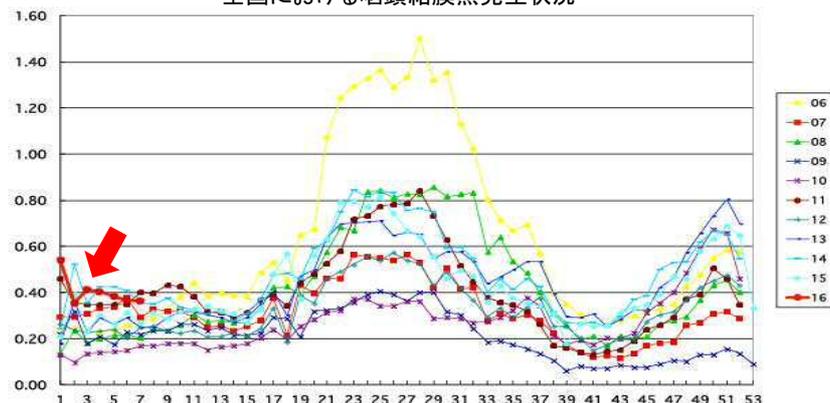
なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

検体送付日	区名	患者性別	患者年齢	検査結果
H27.9.14	多摩区	男	1	アデノウイルス 3 型
H27.9.14	多摩区	男	1	アデノウイルス 3 型
H27.12.25	多摩区	男	9	アデノウイルス 3 型

【全国及びその他】

全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。

全国における咽頭結膜熱発生状況

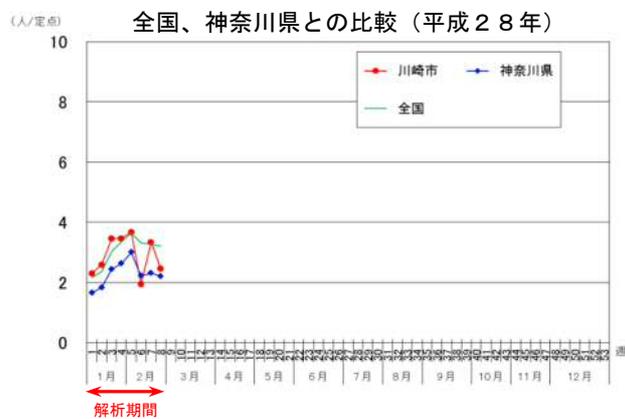
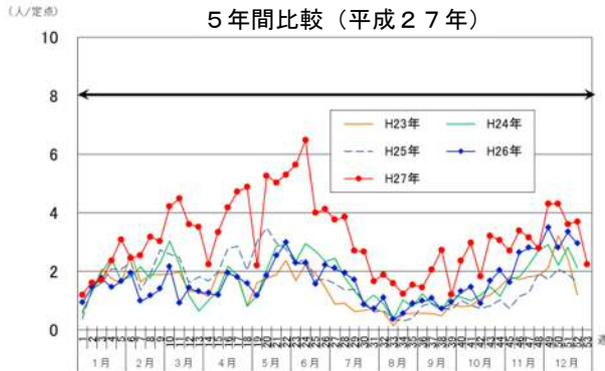


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(警報基準値:定点当たり8人)

【川崎市】

今期は計 2,439 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 180%で、例年よりかなり高いレベルで推移し、平成 11 年のデータ収集開始以降、過去最多の報告数が続きました。

今期、流行発生警報基準値 (8) を超えた週は、多摩区で第 49 週 (8.40 人)、第 50 週 (9.20 人)、第 52 週 (8.80 人) でした。

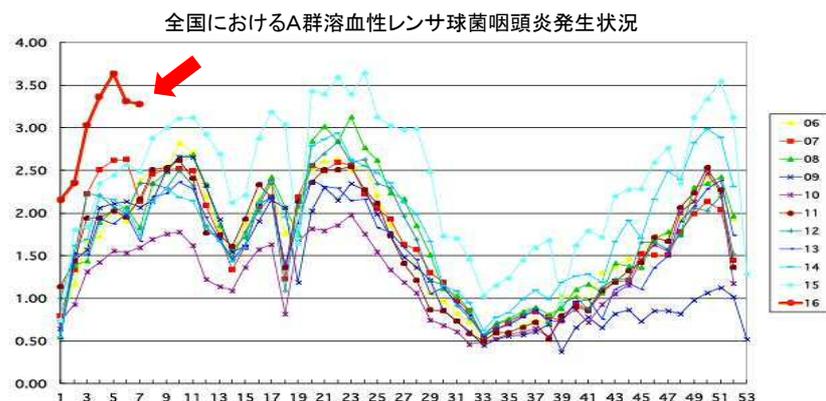


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

検体送付日	患者性別	患者年齢	区名	検査結果	検査結果(T型別)
H27.12.15	男	6	多摩区	不検出	
H27.12.14	男	6	麻生区	A群溶血性レンサ球菌	4
H27.12.21	男	10	宮前区	A群溶血性レンサ球菌	3
H28.1.8	男	5	幸区	A群溶血性レンサ球菌	1

【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり高いレベルで推移しました。

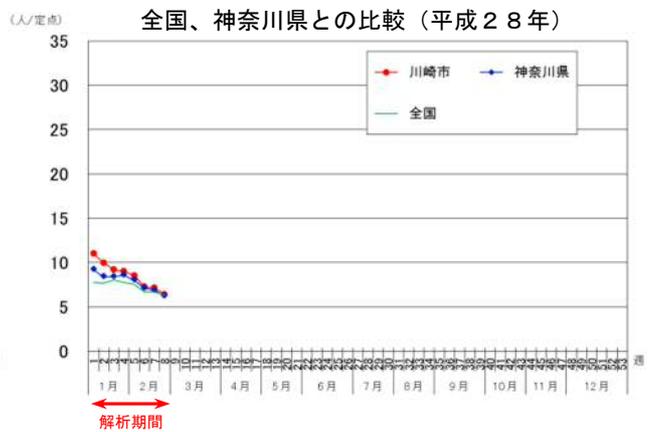
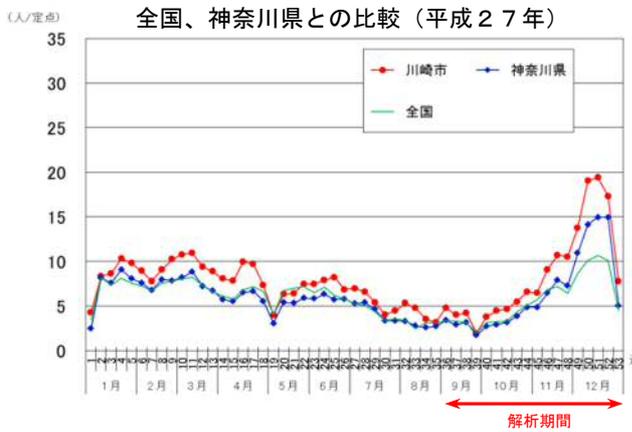
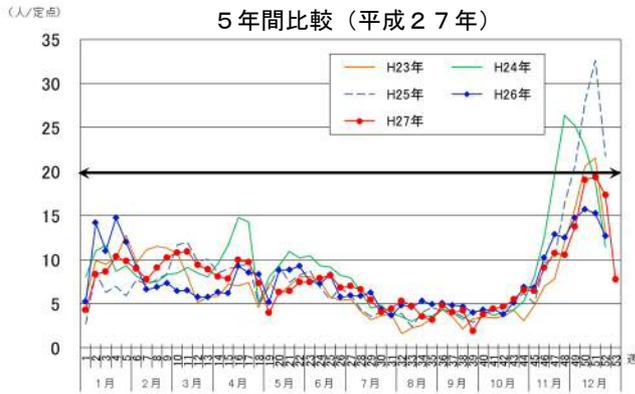


感染性胃腸炎(警報基準値:定点当たり 20 人)

【川崎市】

今期は計 7,306 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 94%で、例年よりやや低いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (20) を超えた週は、川崎区で第 49 週 (21.40 人)、第 50 週 (22.80 人)、第 51 週 (24.20 人)、中原区で第 50 週 (22.20 人)、高津区で第 50 週 (28.80 人)、第 51 週 (27.40 人)、第 52 週 (26.00 人)、宮前区で第 51 週 (24.60 人)、多摩区で第 51 週 (20.60 人) でした。



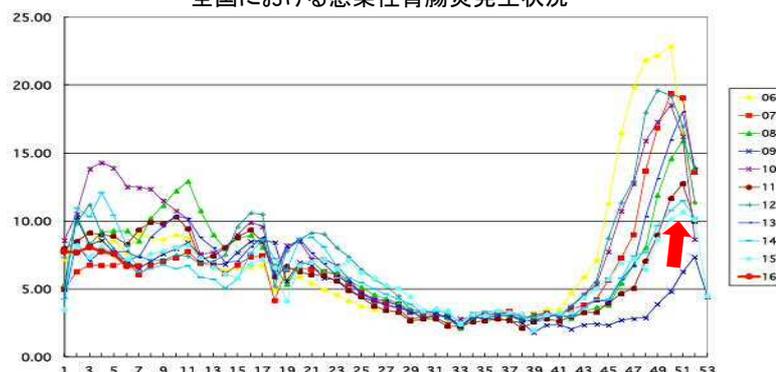
なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

検体送付日	区名	患者性別	患者年齢	検査結果(ウイルス)	検査結果(細菌)
H27.5.28	多摩区	女	0	陰性	陰性
H27.11.24	幸区	男	6	陰性	陰性
H27.12.7	麻生区	男	0	アストロウイルス	陰性
H27.12.21	幸区	男	1	ノロウイルス G2	陰性
H28.1.5	多摩区	男	0	アストロウイルス	陰性

【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

全国における感染性胃腸炎発生状況

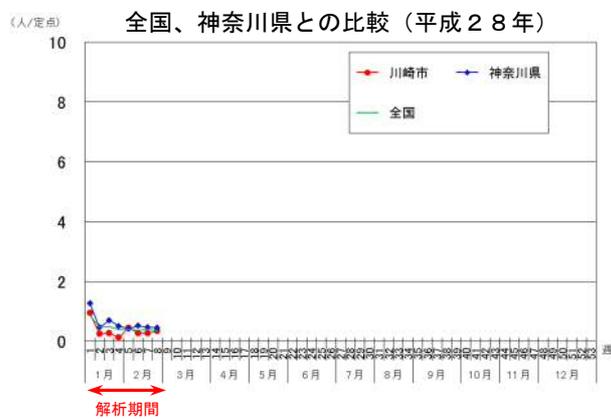
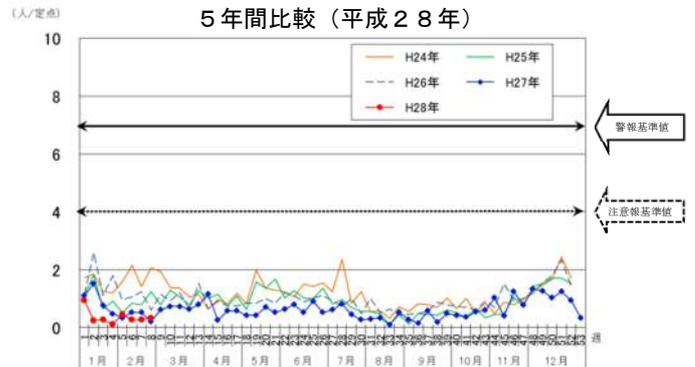
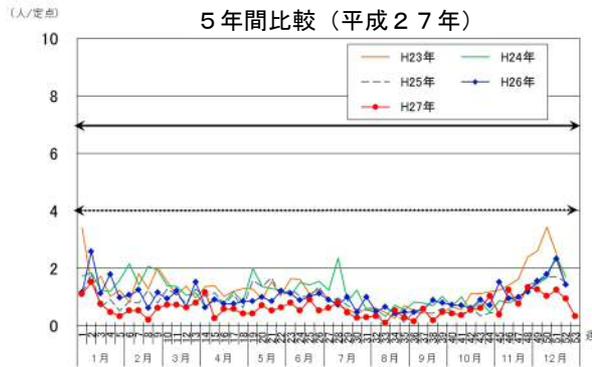


水痘(警報基準値:定点当たり7人、注意報基準値:定点当たり4人)

【川崎市】

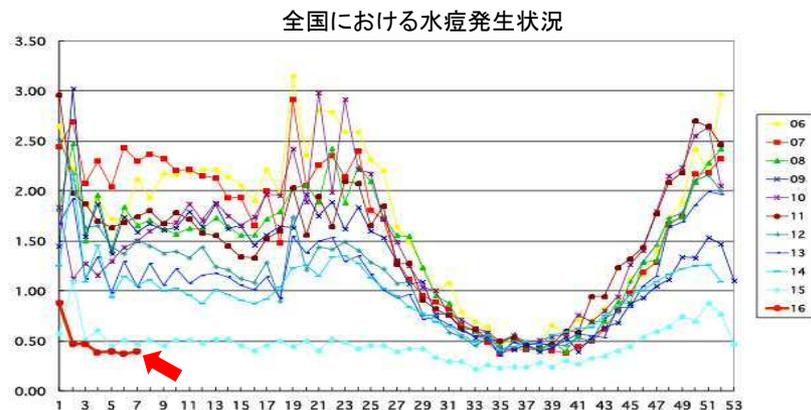
今期は計 520 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 54%で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。平成 26 年 10 月から水痘ワクチンの定期予防接種が導入された影響が示唆されます。

今期、流行発生注意報基準値 (4) を超えた週はありませんでした。



【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。

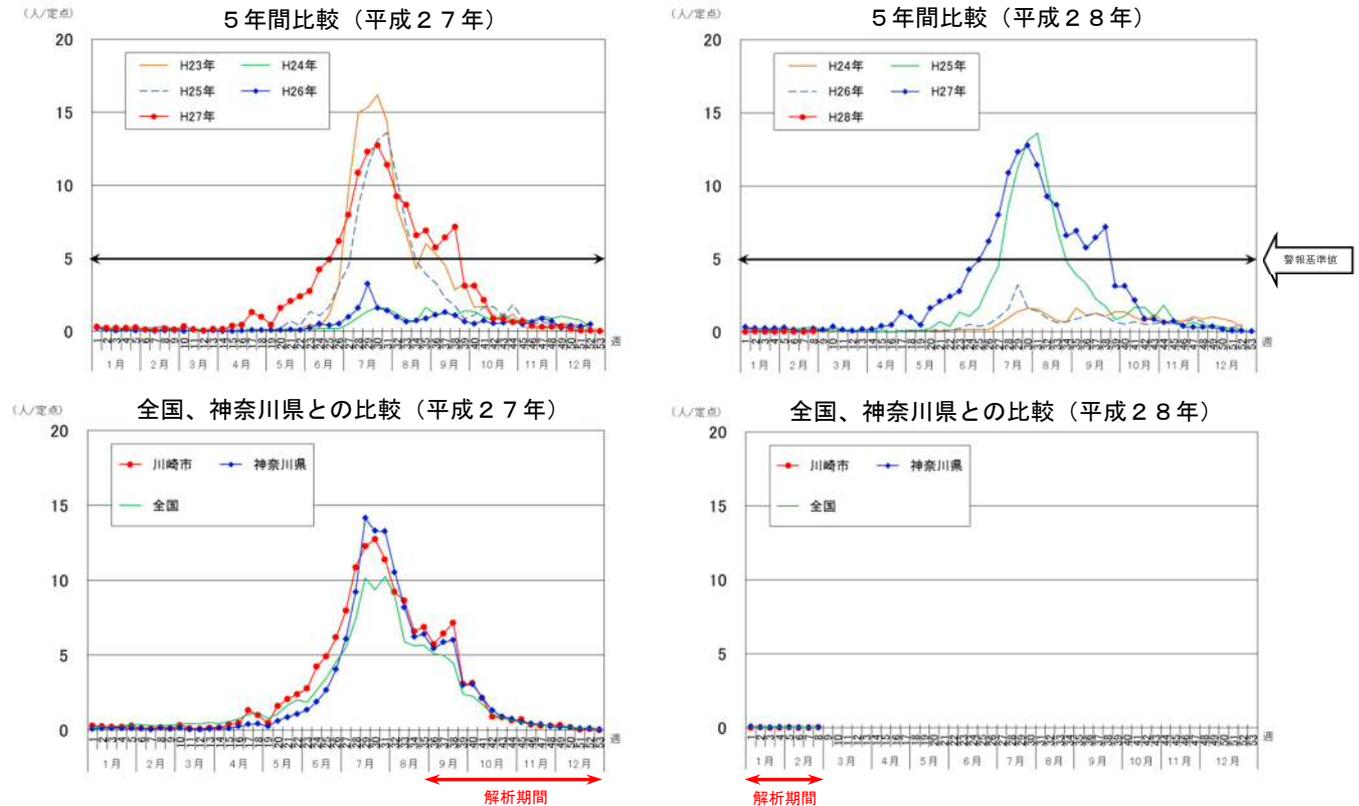


手足口病(警報基準値:定点当たり5人)

【川崎市】

今期は計 1,067 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 196% で、例年よりかなり高いレベルで推移しました。平成 27 年は、例年に比べ、早期から報告数が増加し、ピーク後の減少も遅れたため、全体として報告数が多くなりました。

今期は、第 36 週～第 38 週に全市で流行発生警報基準値 (5) を超えました。

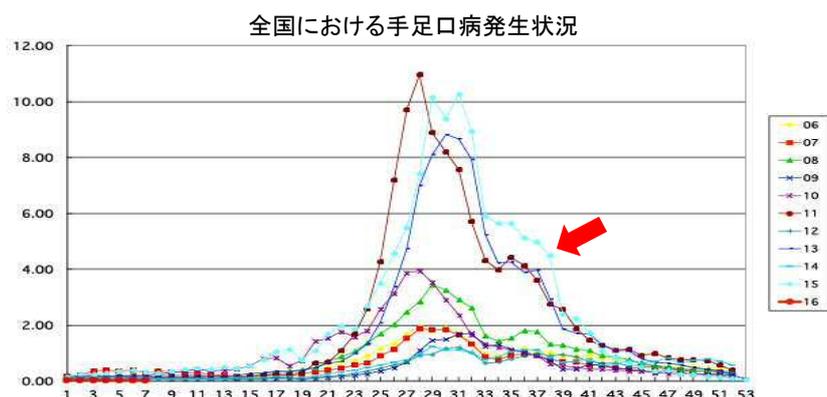


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

検体送付日	区名	患者性別	患者年齢	検査結果
H27.9.10	宮前区	女	0	コクサッキーウイルス A6 型
H27.9.16	宮前区	男	1	コクサッキーウイルス A16 型 エンテロウイルス D68 型
H27.9.18	宮前区	男	4	コクサッキーウイルス A6 型
H27.9.18	宮前区	男	2	エンテロウイルス D68 型
H27.9.24	宮前区	女	5	コクサッキーウイルス A6 型

【全国及びその他】

全国的にも例年より高いレベルで推移しました。



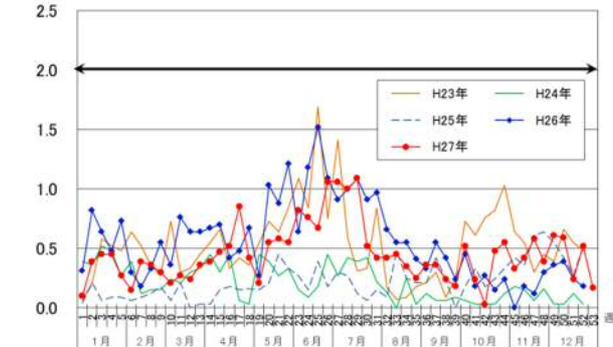
伝染性紅斑(警報基準値:定点当たり2人)

【川崎市】

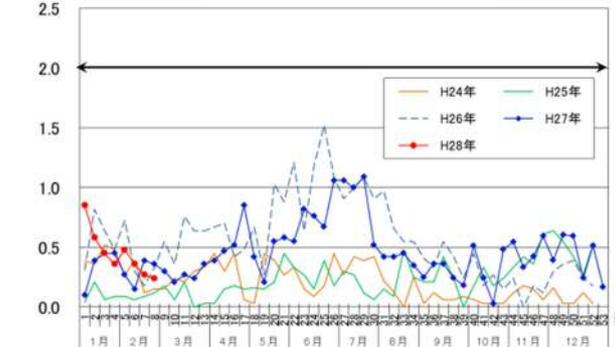
今期は計 343 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 137%で、例年よりやや高いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (2) を超えた週は、川崎区で第 50 週 (2.40 人)、第 1 週 (2.40 人) でした。

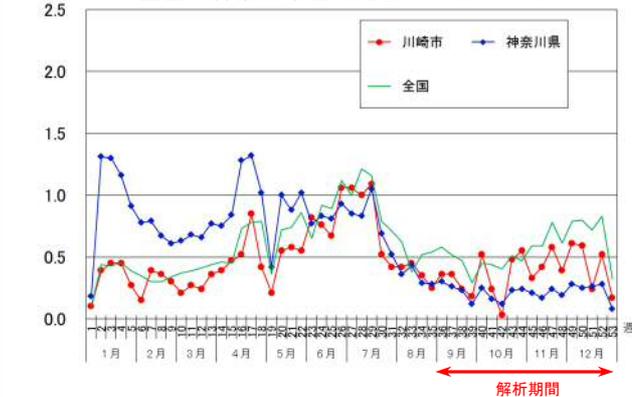
5年間比較 (平成27年)



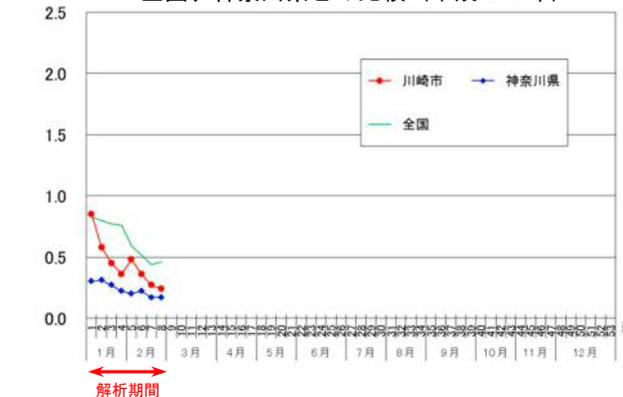
5年間比較 (平成28年)



全国、神奈川県との比較 (平成27年)



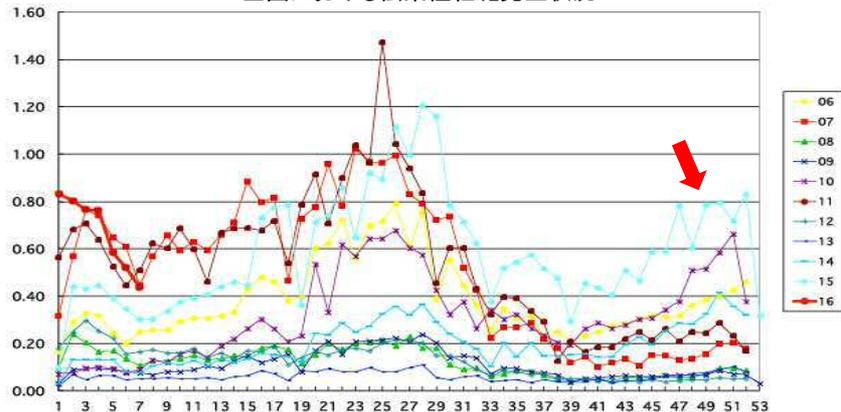
全国、神奈川県との比較 (平成28年)



【全国及びその他】

全国的にも例年より高いレベルで推移しました。

全国における伝染性紅斑発生状況

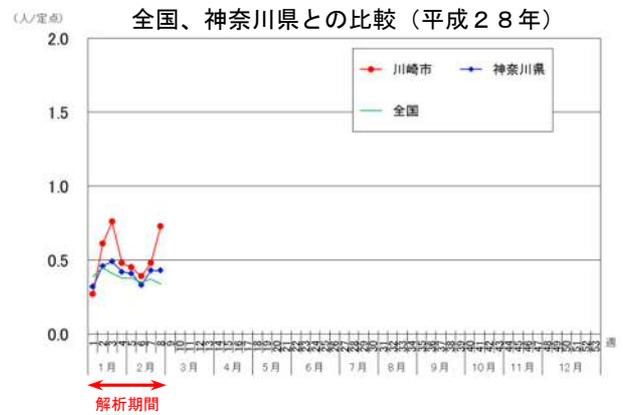
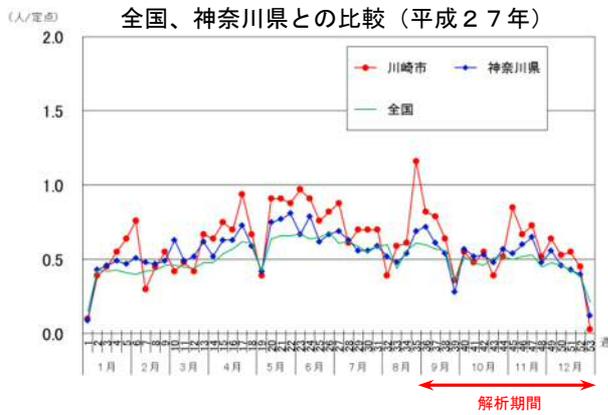
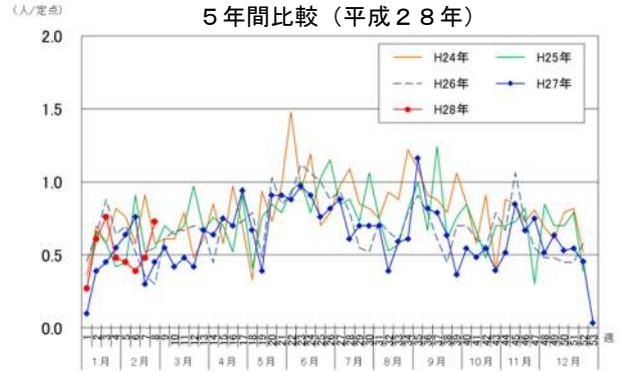
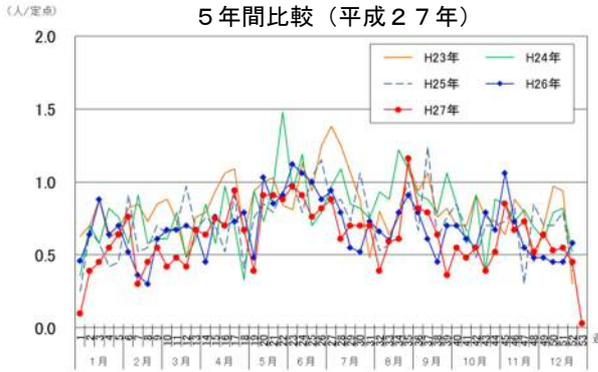


突発性発しん

【川崎市】

今期は計 469 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 84%で、例年よりやや低いレベルで推移しました。ただし、全国や神奈川県と比較するとやや高いレベルで推移しました。

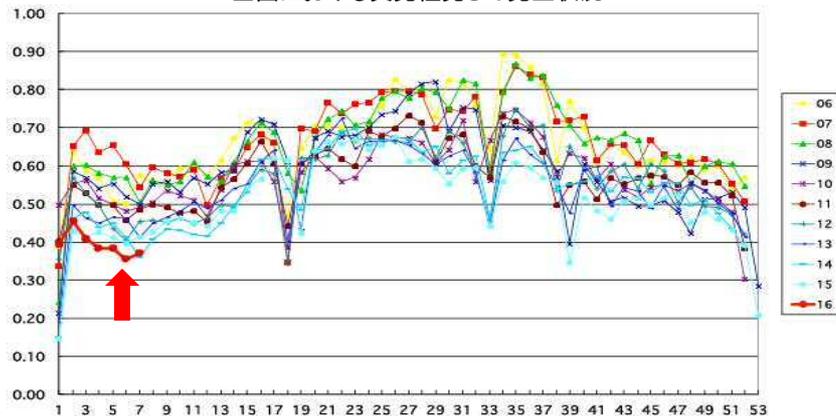
また、年齢別では 1 歳以下が 87%を占めていました。



【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

全国における突発性発しん発生状況

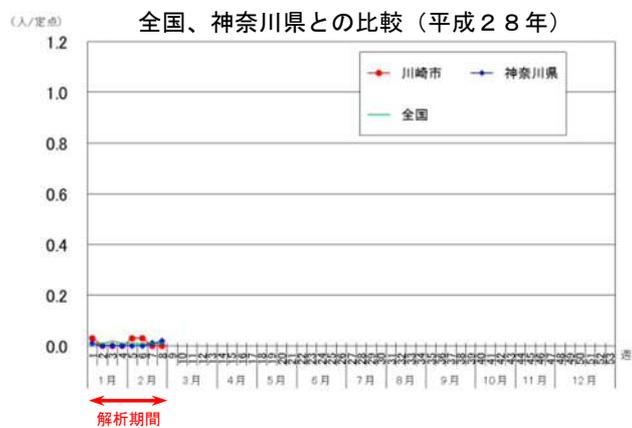
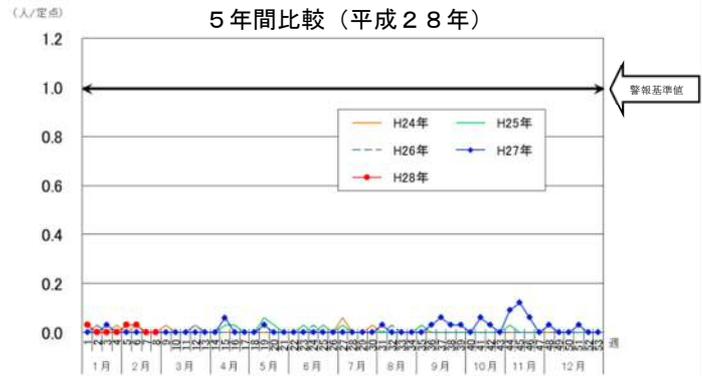
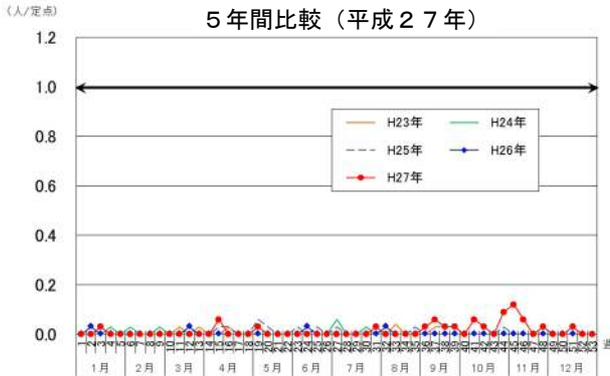


百日咳(警報基準値:定点当たり1人)

【川崎市】

今期は計 22 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 786%で、例年よりかなり高いレベルで推移しました。特に 9 月以降報告数が増加し、流行のピークは第 45 週(平成 27 年 11 月 3 日～11 月 9 日)の定点当たり 0.12 人でした。

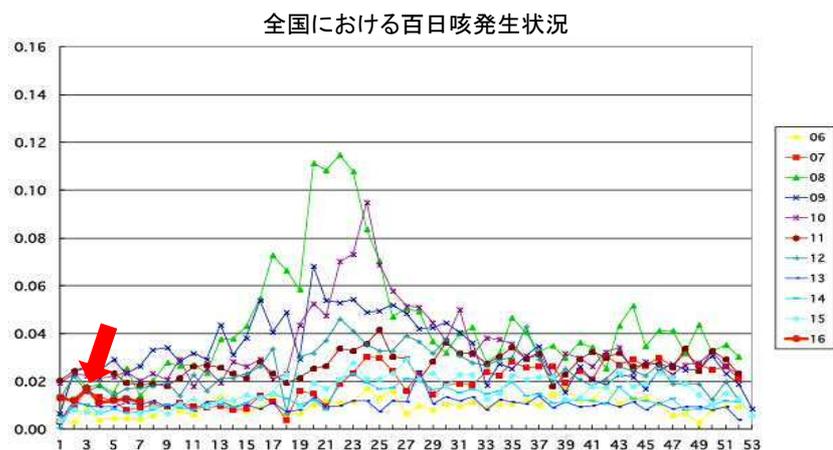
また、年齢別では 20 歳以上が 45%を占めていました。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にはほぼ例年並みのレベルで推移しました。

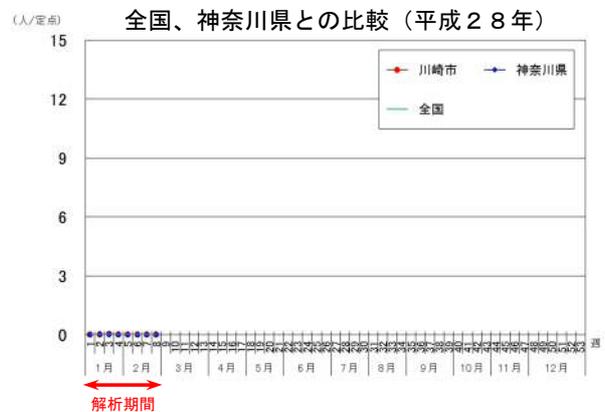
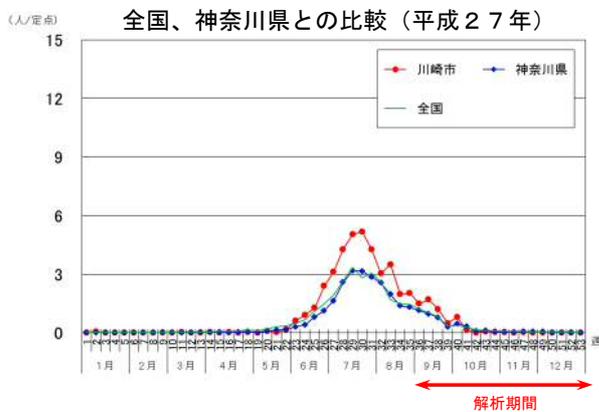
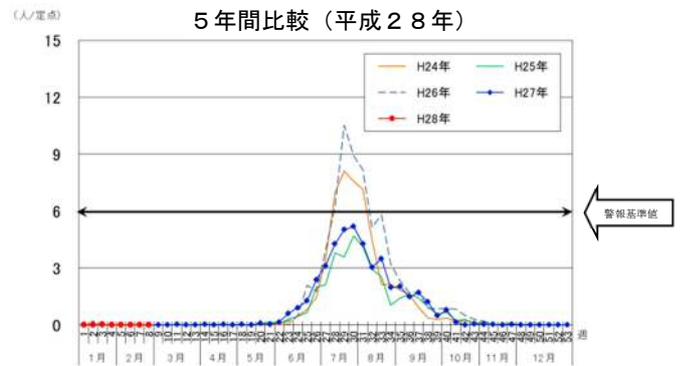
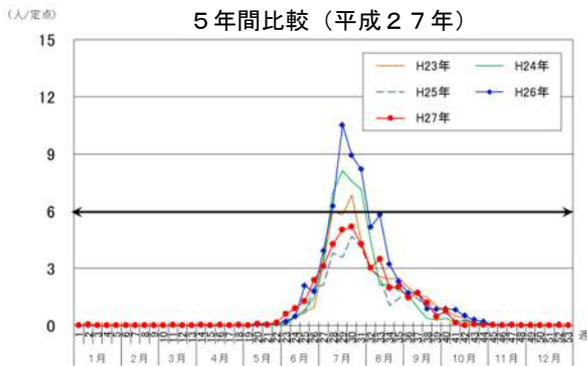


ヘルパンギーナ(警報基準値:定点当たり6人)

【川崎市】

今期は計 198 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 104%で、ほぼ例年並みのレベルで推移しました。

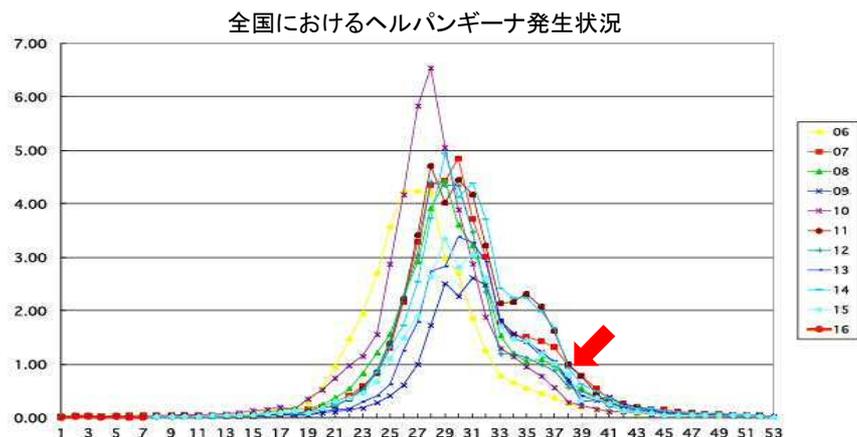
今期、流行発生警報基準値 (6) を超えた週はありませんでした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にもほぼ例年並みのレベルで推移しました。

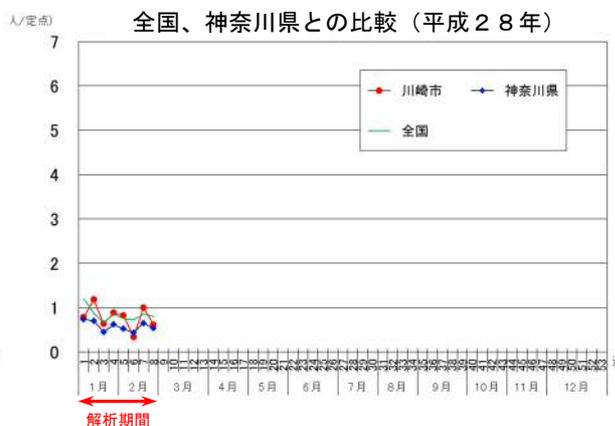
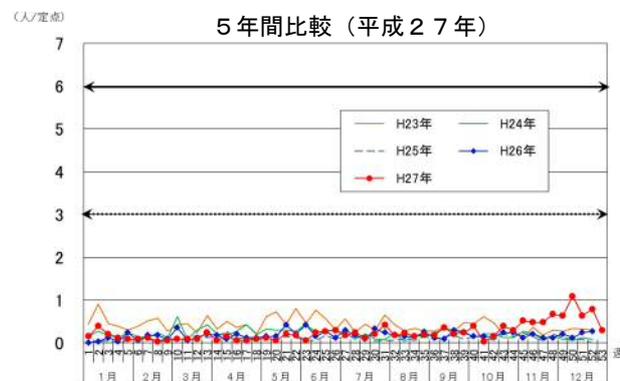


流行性耳下腺炎(警報基準値:定点当たり6人、注意報基準値:定点当たり3人)

【川崎市】

今期は計 464 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 188%で、例年よりかなり高いレベルで推移しました。特に 11 月以降報告数が大幅に増加し、流行のピークは第 2 週 (平成 28 年 1 月 11 日～1 月 17 日) の定点当たり 1.18 人でした。

今期、流行発生注意報基準値 (3) を超えた週は、幸区で第 52 週 (3.75 人)、中原区で第 50 週 (4.40 人)、多摩区で第 7 週 (3.20 人) でした。

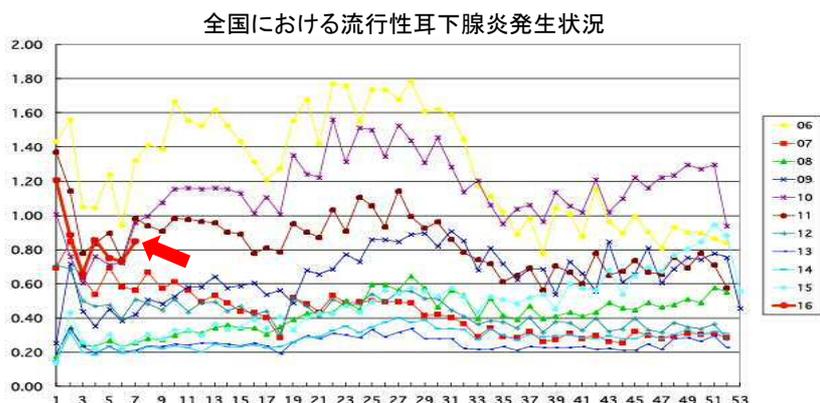


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

検体送付日	区名	検査結果	患者性別	患者年齢
H27.10.29	多摩区	陰性	女	3
H27.11.2	多摩区	陰性	女	4
H27.11.16	川崎区	陰性	男	8
H28.1.5	多摩区	ムンプスウイルス	男	9
H28.1.6	多摩区	ムンプスウイルス	女	5
H28.2.1	多摩区	ムンプスウイルス	女	6

【全国及びその他】

全国的にも例年より高いレベルで推移しました。



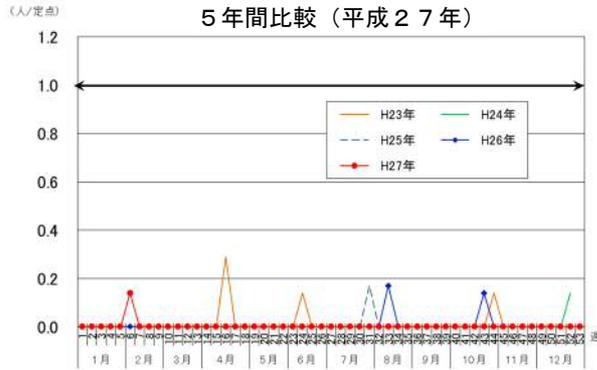
<眼科定点対象疾患>

急性出血性結膜炎(警報基準値:定点当たり1人)

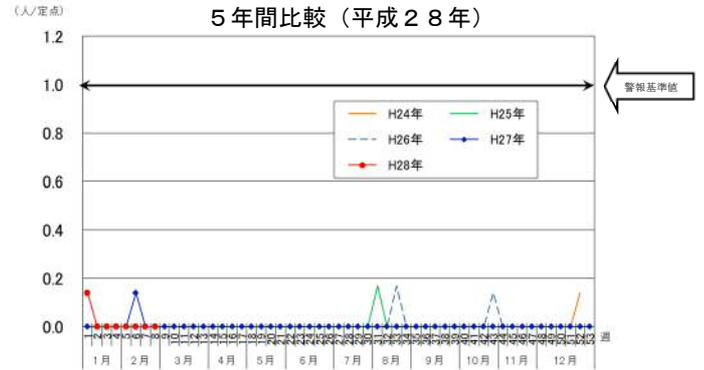
【川崎市】

今期は計1件の報告があり、過去5年平均の報告数は0.8件で、ほぼ例年並みのレベルで推移しました。

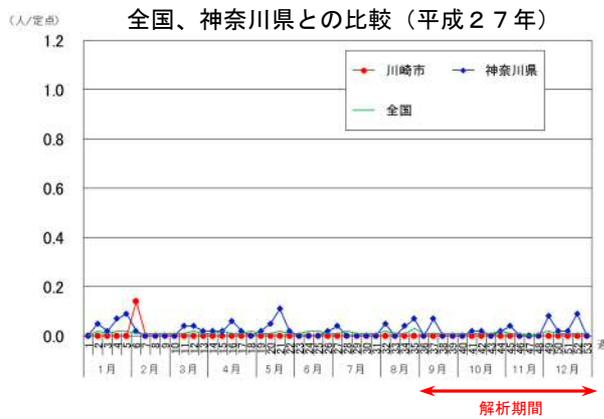
5年間比較 (平成27年)



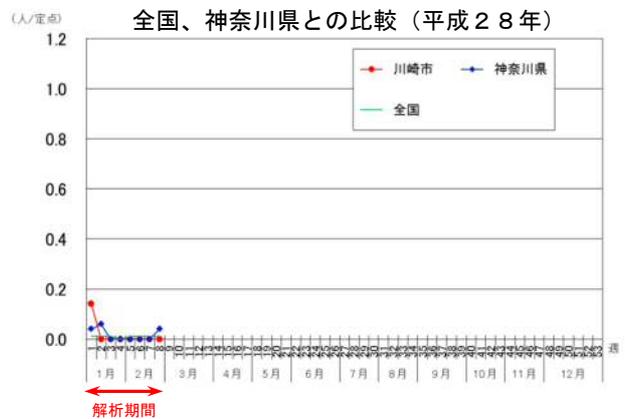
5年間比較 (平成28年)



全国、神奈川県との比較 (平成27年)



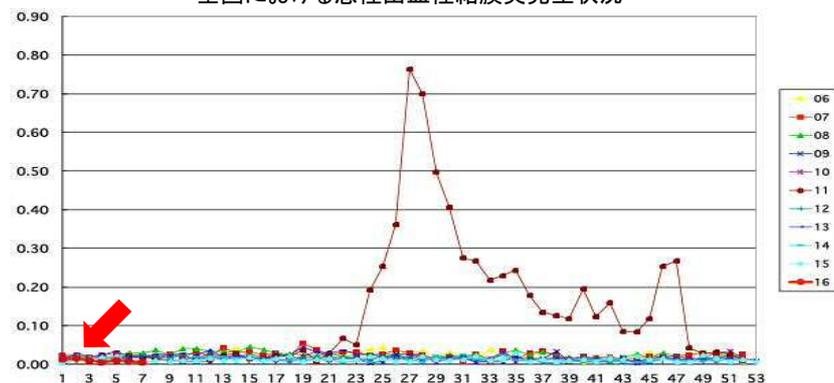
全国、神奈川県との比較 (平成28年)



【全国及びその他】

全国的にもほぼ例年並みのレベルで推移しました。

全国における急性出血性結膜炎発生状況

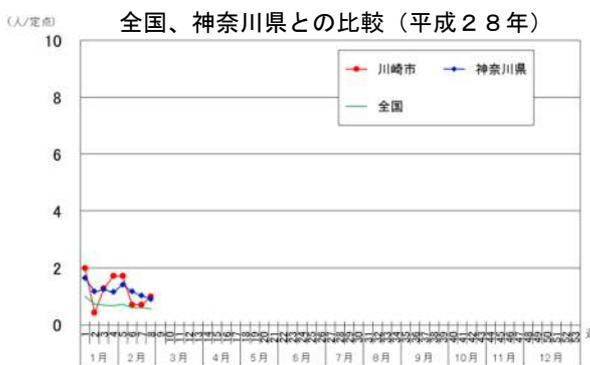
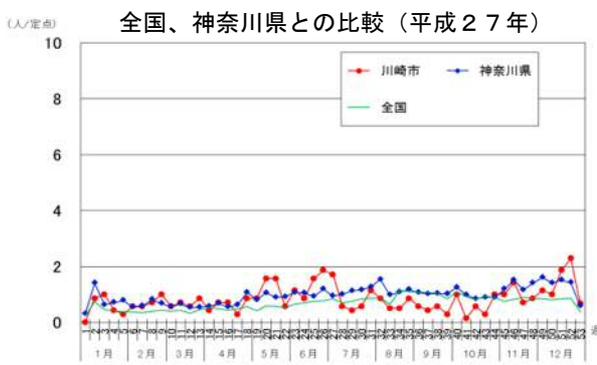
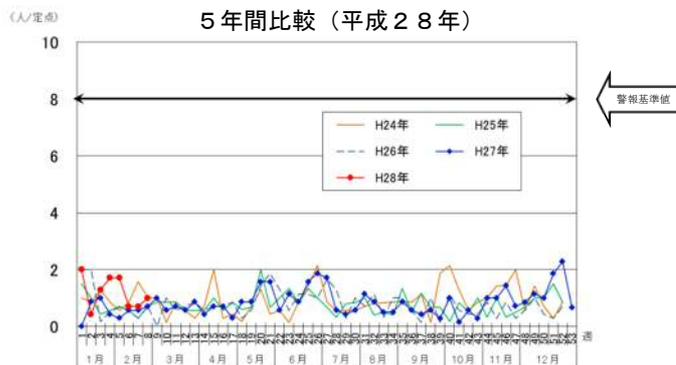
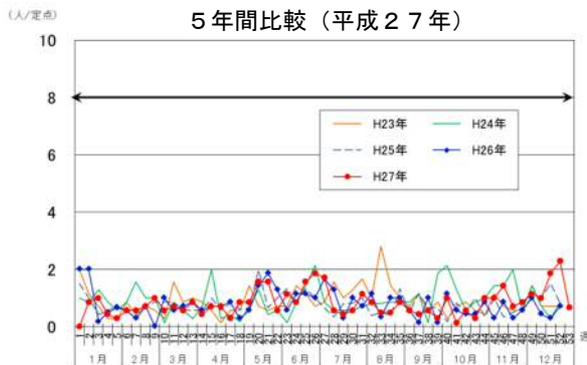


流行性角結膜炎(警報基準値:定点当たり8人)

【川崎市】

今期は計 177 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 133%で、例年よりやや高いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (8) を超えた週はありませんでした。

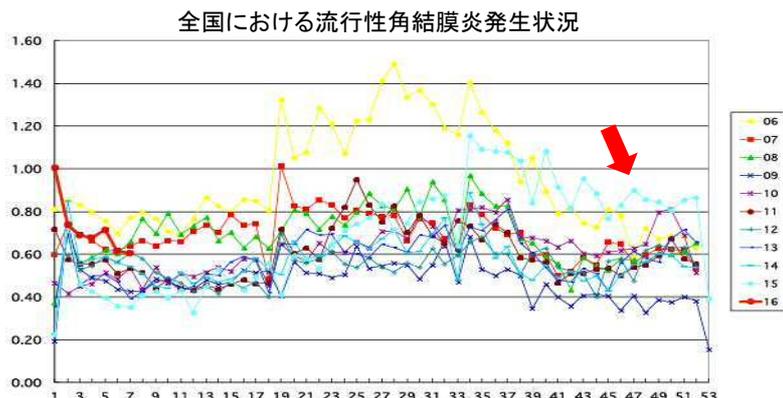


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

検体送付日	区名	検査結果	患者性別	患者年齢
H27.10.2	川崎	陰性	女	35
H27.10.5	川崎	陰性	男	19
H27.10.13	川崎	陰性	女	39
H27.11.2	川崎	陰性	男	50
H27.11.5	川崎	アデノウイルス 4 型	男	34
H27.11.9	川崎	陰性	男	9
H27.11.19	川崎	アデノウイルス 3 型	女	66
H28.1.5	川崎	アデノウイルス 53 型	男	24
H28.1.14	川崎	アデノウイルス 53 型	男	55

【全国及びその他】

全国的にも例年より高いレベルで推移しました。

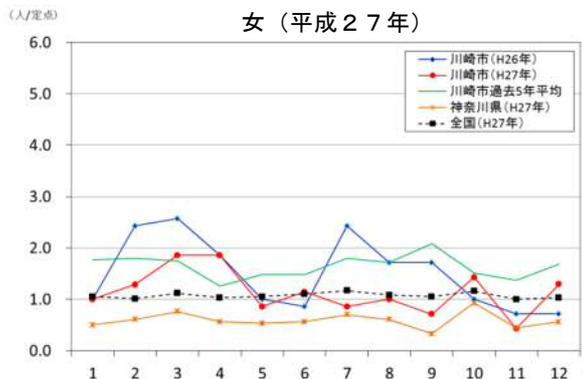
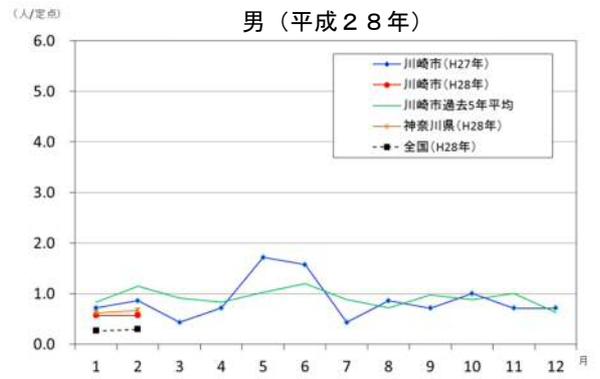
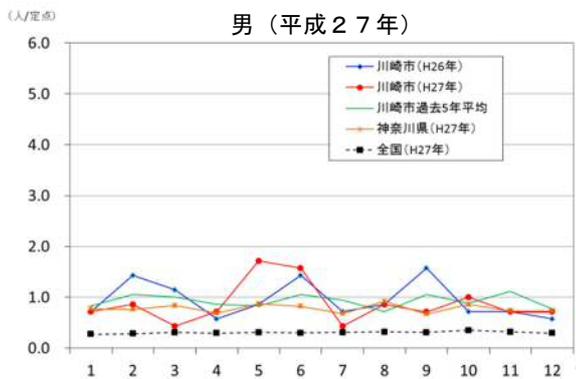
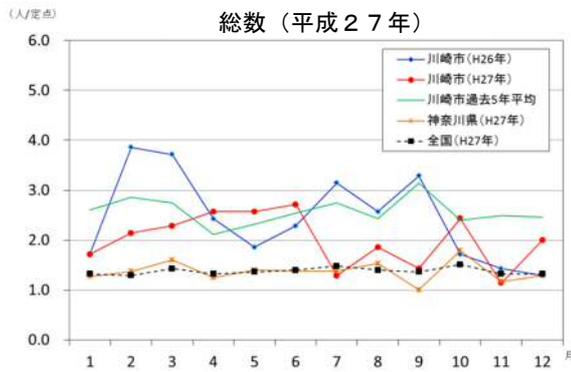


<性感染症定点対象疾患>

性器クラミジア感染症

【川崎市】

今期は計 81 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 72% で、例年より低いレベルで推移しました。



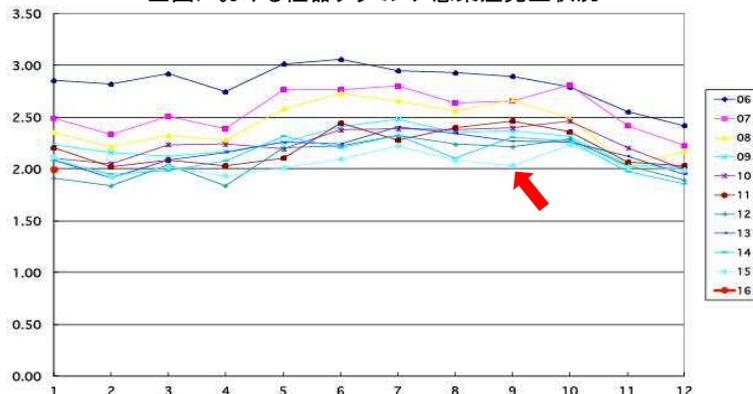
解析期間

解析期間

【全国及びその他】

全国的にも例年よりやや低いレベルで推移しました。

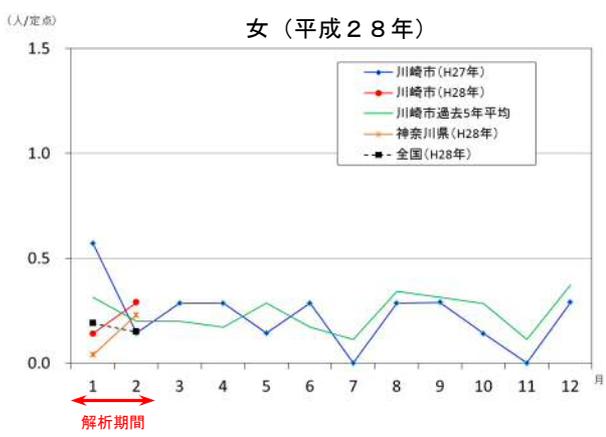
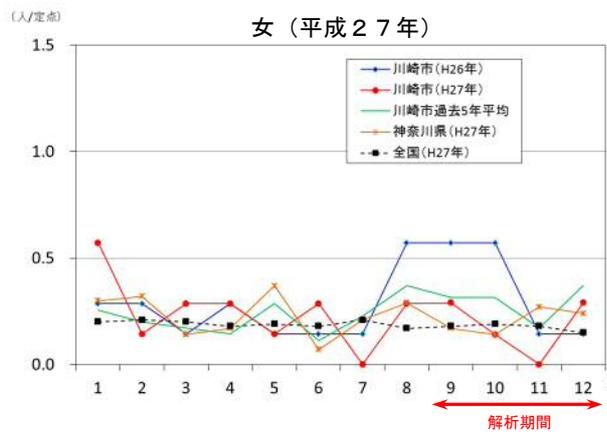
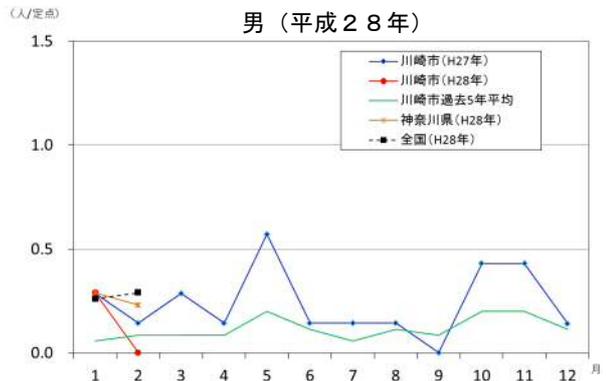
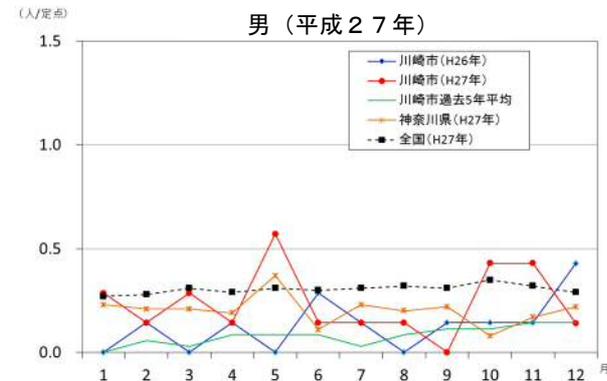
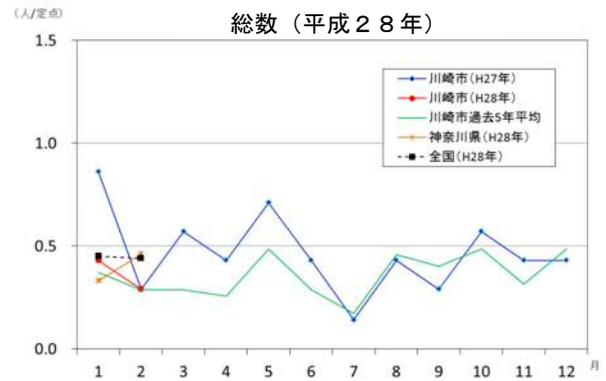
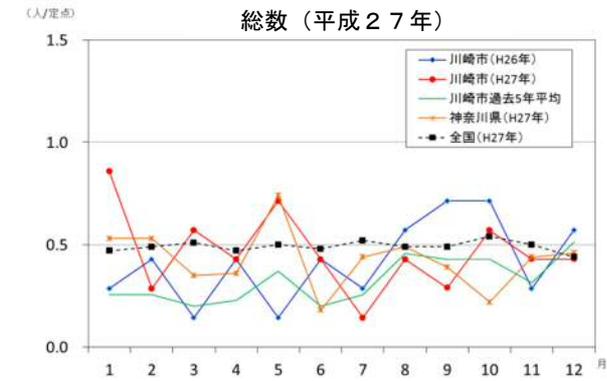
全国における性器クラミジア感染症発生状況



性器ヘルペスウイルス感染症

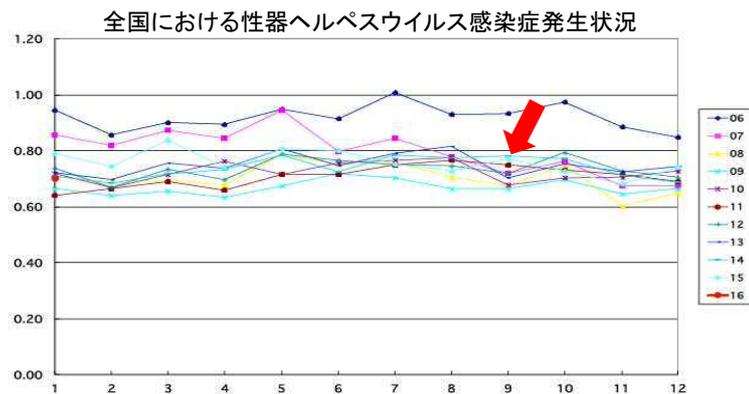
【川崎市】

今期は計 17 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 104% で、ほぼ例年並みのレベルで推移しました。



【全国及びその他】

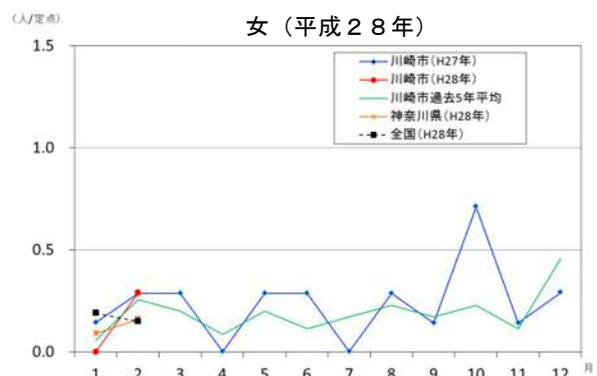
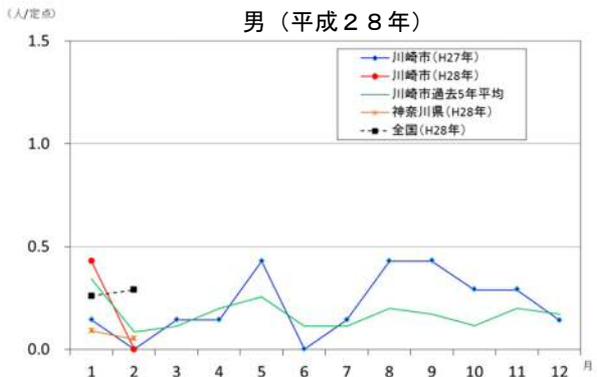
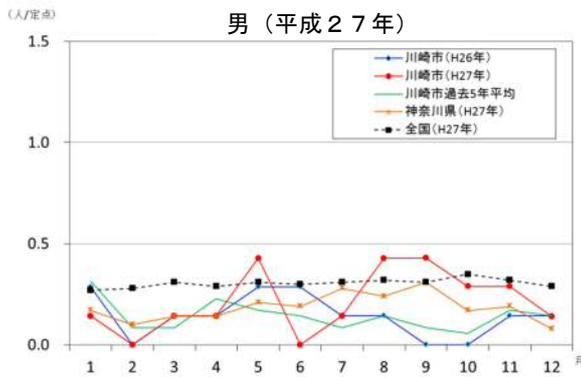
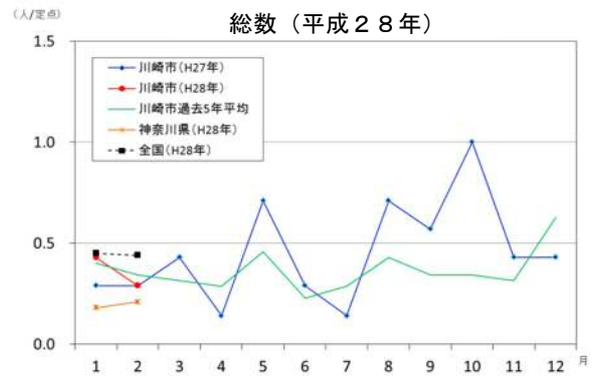
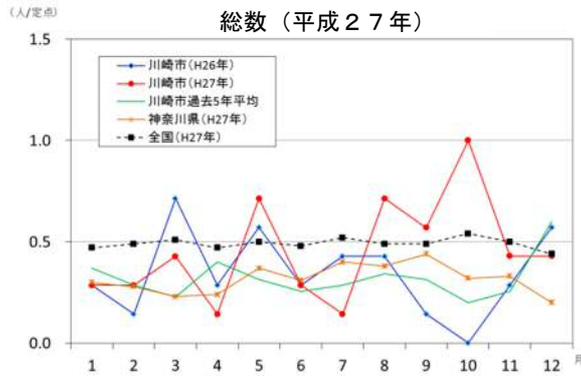
全国的にもほぼ例年並みのレベルで推移しました。



尖圭コンジローマ

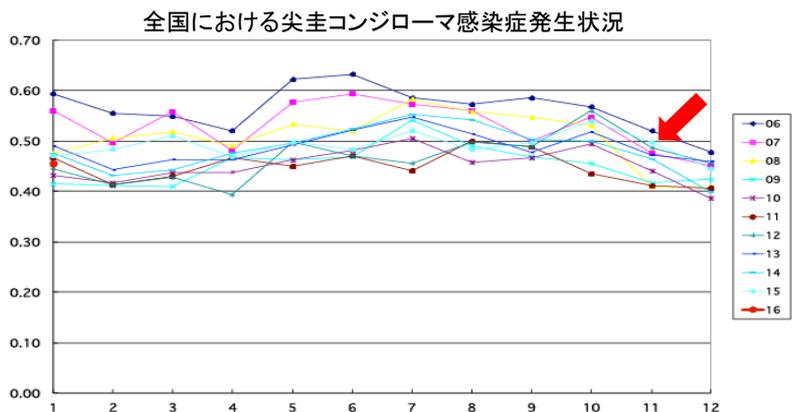
【川崎市】

今期は計 22 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 149%で、例年より高いレベルで推移しました。



【全国及びその他】

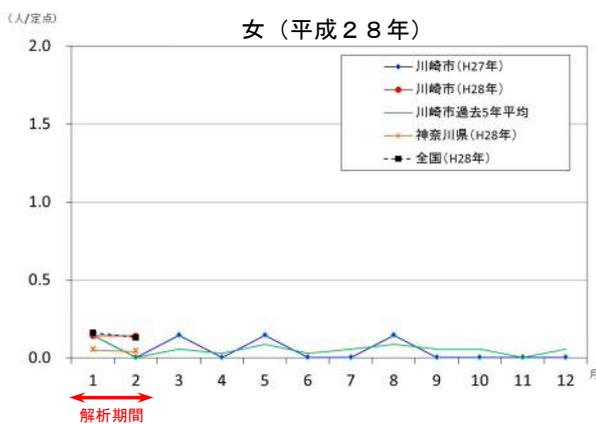
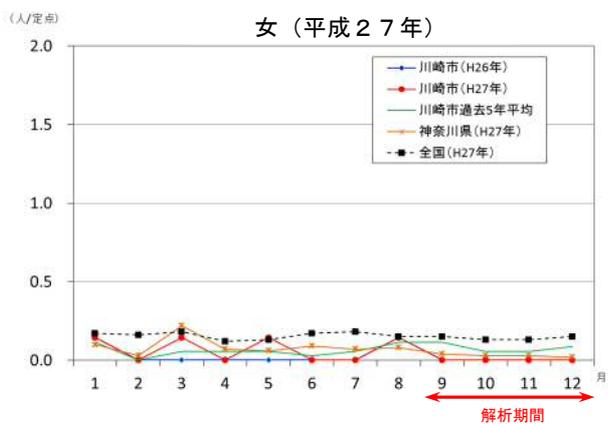
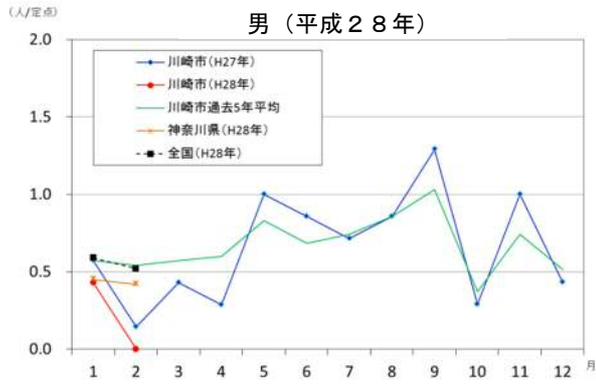
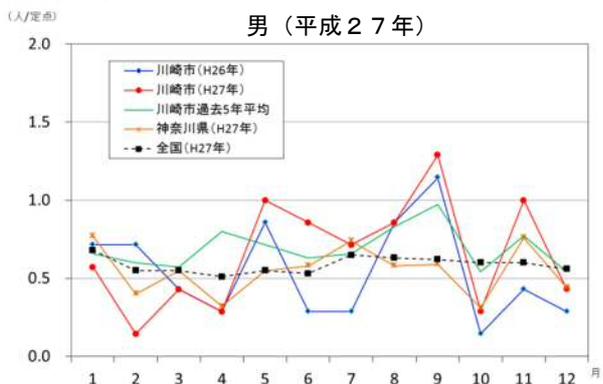
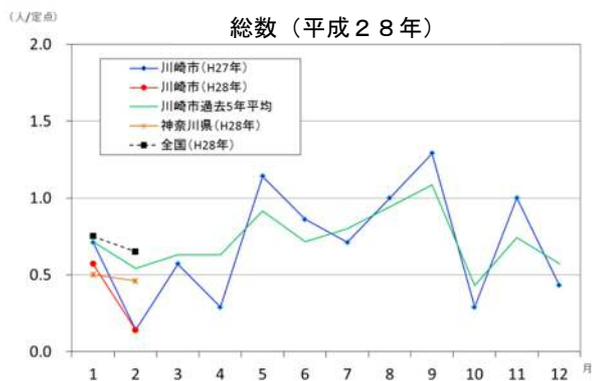
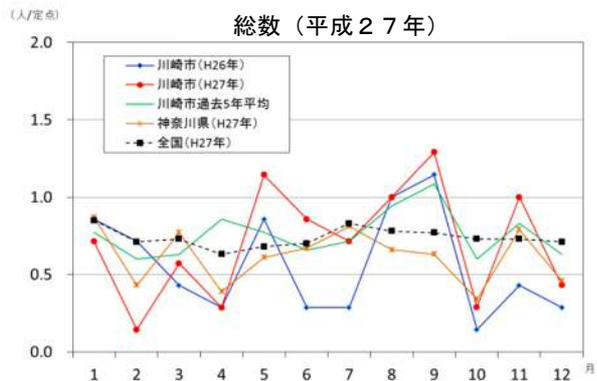
全国的にはほぼ例年並みのレベルで推移しました。



淋菌感染症

【川崎市】

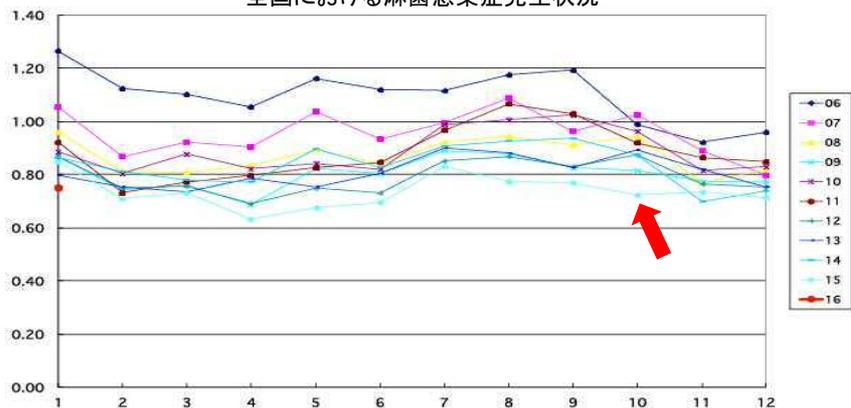
今期は計 26 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 84% で、例年よりやや低いレベルで推移しました。



【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

全国における淋菌感染症発生状況



< 基幹定点対象疾患（週報） >

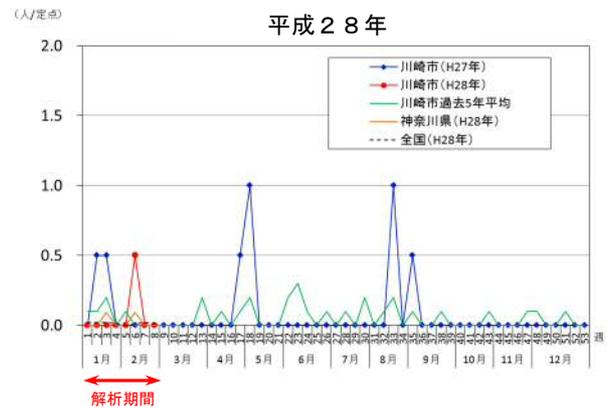
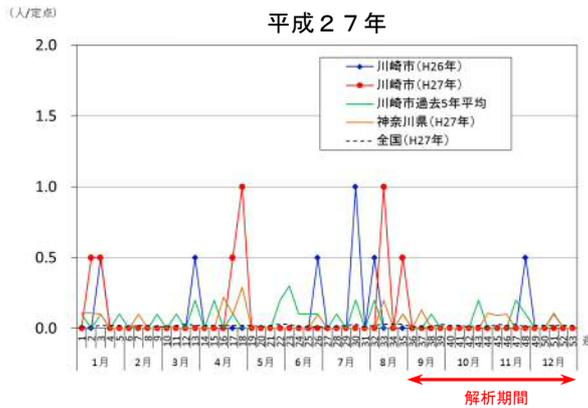
細菌性髄膜炎

【川崎市】

今期は計 1 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数は 2.4 件でした。

なお、検出された病原菌は次のとおりです。

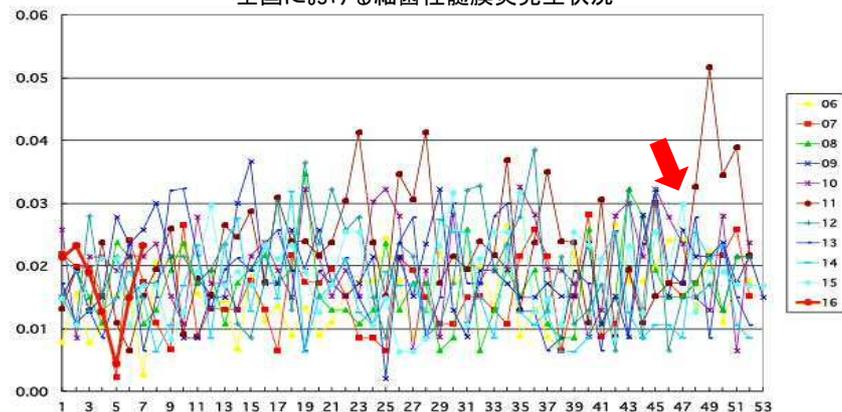
届出週	区名	患者性別	患者年齢	検査結果	検査部位
第 6 週	宮前	女	58	<i>Enterobacter sp.</i>	髄液



【全国及びその他】

全国的にはほぼ例年並みのレベルで推移しました。

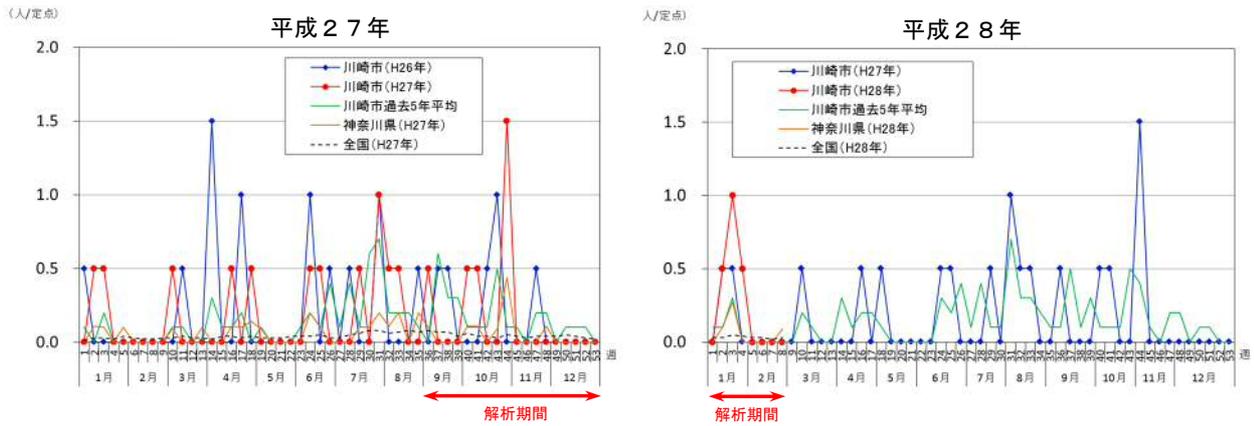
全国における細菌性髄膜炎発生状況



無菌性髄膜炎

【川崎市】

今期は計 10 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数は 6.8 件で、例年より高いレベルで推移しました。

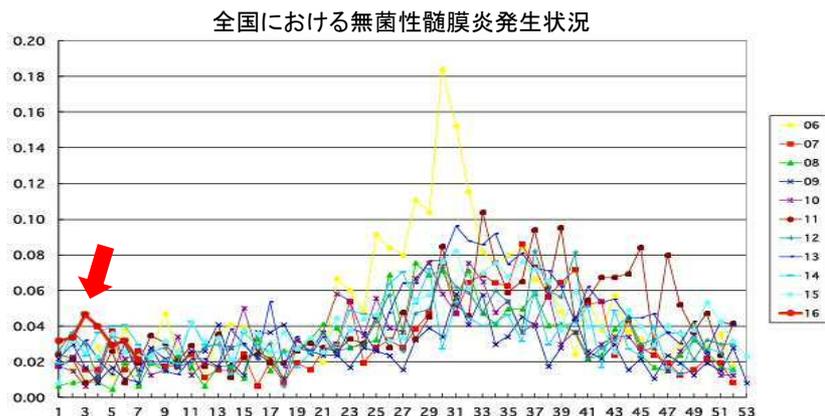


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

検体送付日	区名	検査結果	検査部位	患者性別	患者年齢
H27.9.4	川崎	陰性	髄液	女	6
H27.10.2	川崎	陰性	髄液	男	55
H27.10.9	川崎	陰性	髄液	男	31
H27.10.28	川崎	陰性	髄液	男	0
H27.10.29	川崎	陰性	髄液	男	72
H27.10.30	川崎	陰性	髄液	男	13
H28.1.18	川崎	陰性	髄液	男	48
H28.1.22	川崎	陰性	髄液	男	44

【全国及びその他】

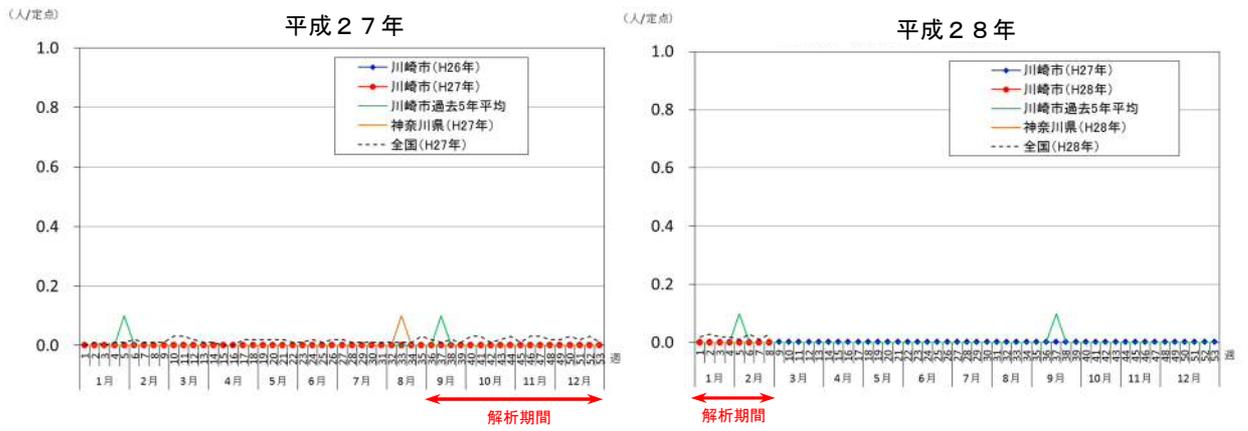
全国的にも例年よりやや高いレベルで推移しました。



クラミジア肺炎(オウム病を除く)

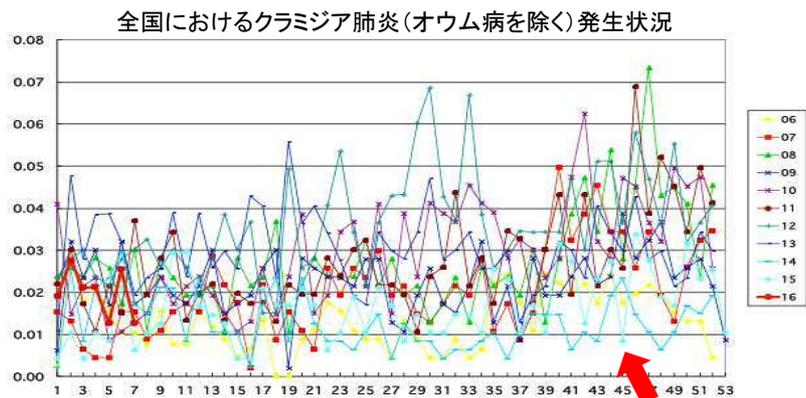
【川崎市】

今期は報告がありませんでした。



【全国及びその他】

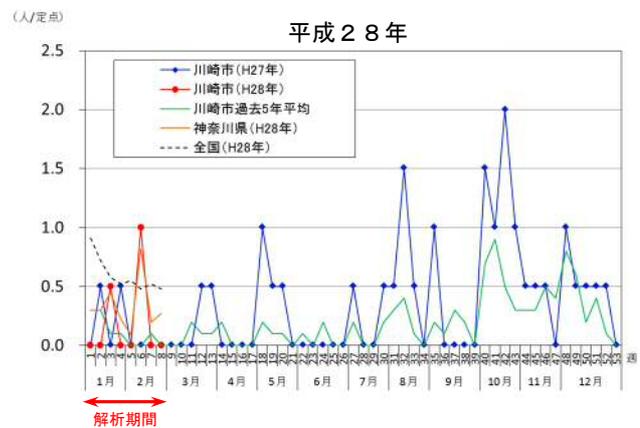
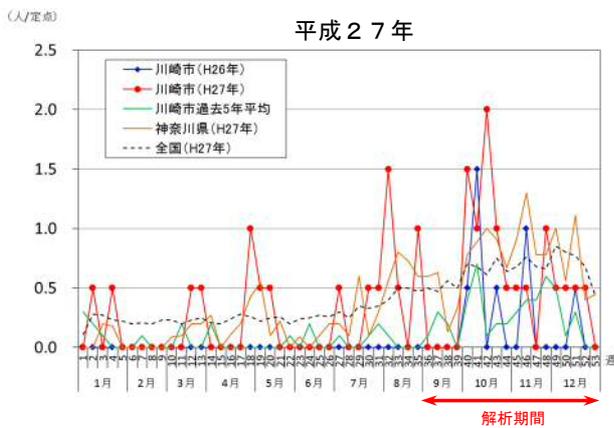
全国的にも例年よりやや低いレベルで推移しました。



マイコプラズマ肺炎

【川崎市】

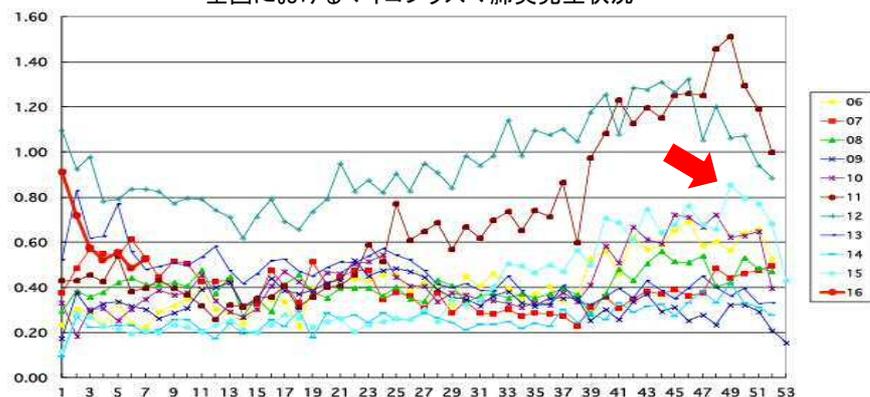
今期は計 23 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 202%で、例年より高いレベルで推移しました。例年は 11 月から 12 月にかけてピークをむかえますが、平成 26 年及び平成 27 年は 10 月がピークとなり、流行時期が早くなる傾向となっています。



【全国及びその他】

全国的にも例年より高いレベルで推移しました。

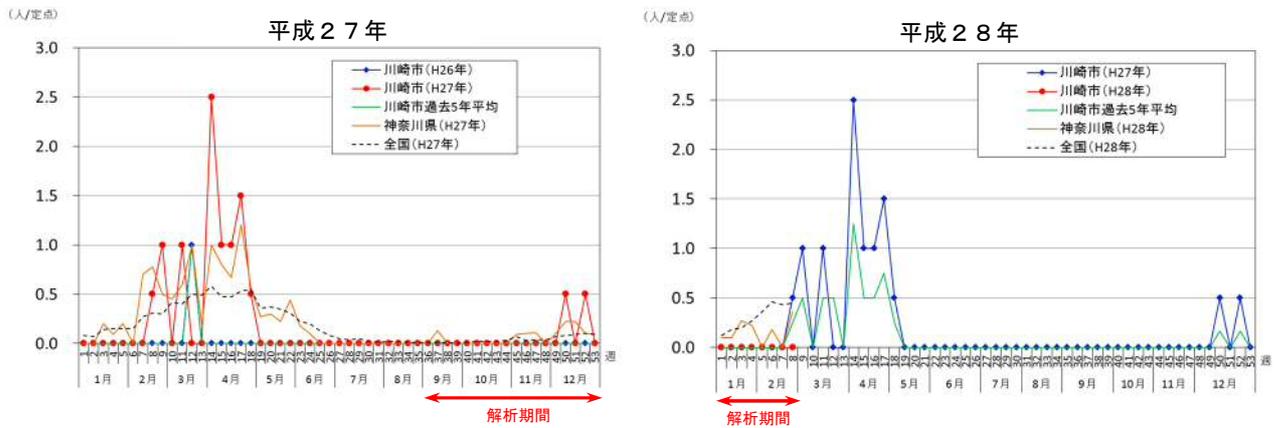
全国におけるマイコプラズマ肺炎発生状況



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

【川崎市】

今期は計2件の報告があり、過去5年平均の報告数は0.2件で、例年よりかなり高いレベルで推移しました。



なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

検体送付日	区名	検査結果	患者性別	患者年齢
H27.12.16	川崎区	ロタウイルス G2P[4]	女	4

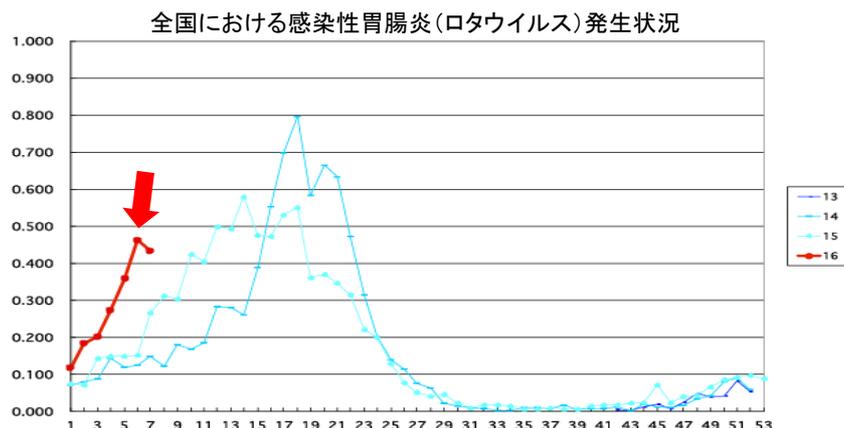
※単価ワクチン：G1P[8]を成分とした弱毒生ワクチン

※5価ワクチン：G1、G2、G3、G4、P1A[8]を成分とした弱毒生ワクチン

単価ワクチン及び5価ワクチンについては、いずれもG1P[8]、G2P[4]、G3P[8]、G4P[8]、G9P[8]に効果があると添付文書に記載されている。

【全国及びその他】

全国的にも例年より高いレベルで推移しました。

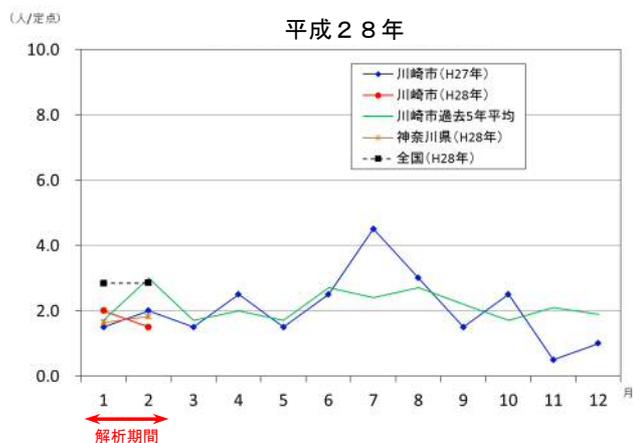
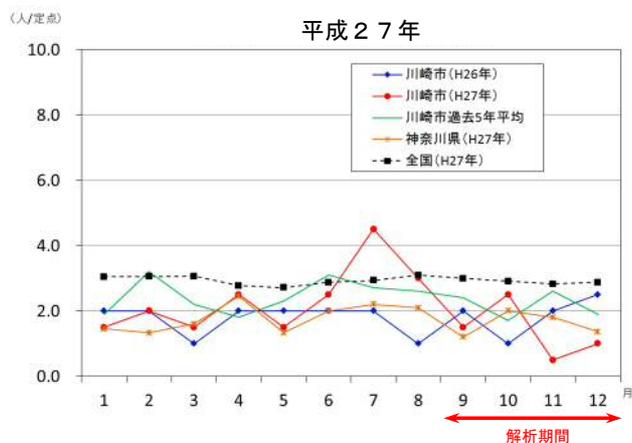


<基幹定点対象疾患（月報）>

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

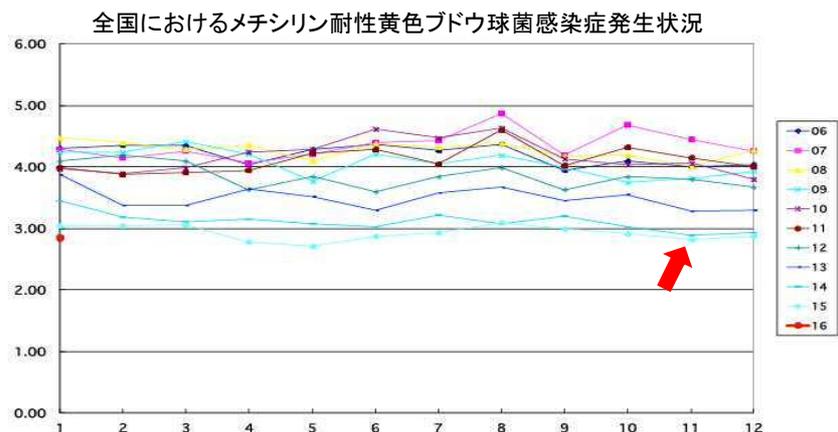
【川崎市】

今期は計 18 件の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 68% で、例年より低いレベルで推移しました。



【全国及びその他】

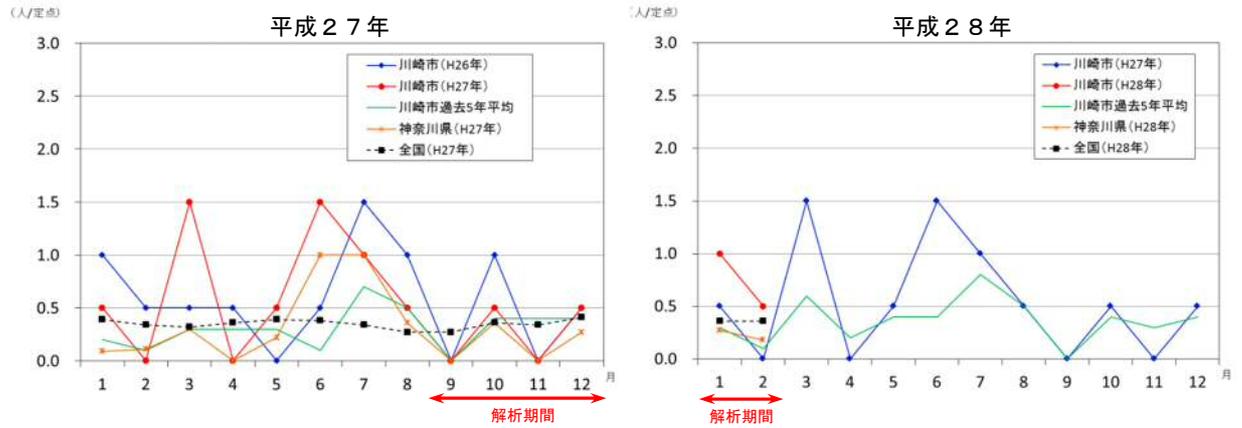
全国的にも例年より低いレベルで推移しました。



ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

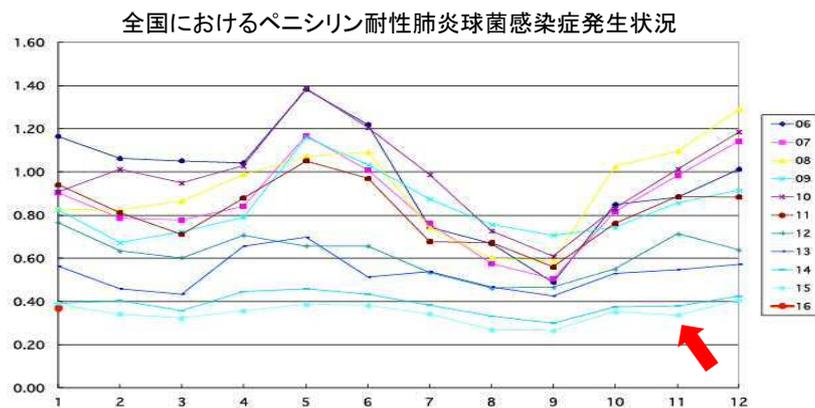
【川崎市】

今期は計5件の報告があり、過去5年平均の報告数と比較すると156%で、例年より高いレベルで推移しました。



【全国及びその他】

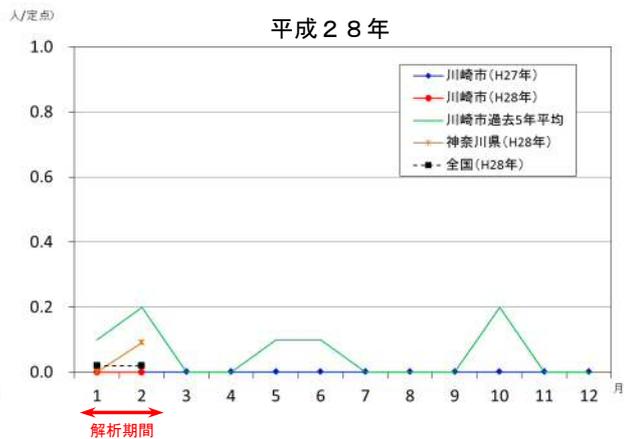
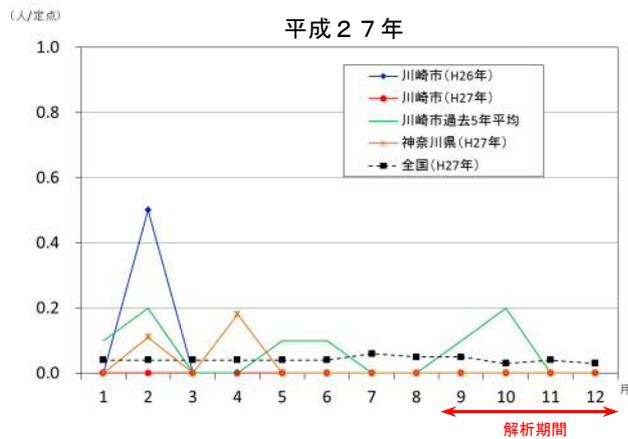
全国的には例年より低いレベルで推移しました。



薬剤耐性緑膿菌感染症

【川崎市】

今期は報告がありませんでした。



【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

